

## 第4回 福井の道づくり懇話会 議事録（要旨）

日時 令和3年2月3日（水） 14:00～15:30

場所 福井県国際交流会館 特別会議室

### 1 開 会

司 会

ただ今から、第4回福井の道づくり懇話会を開催する。

### 2 あいさつ

土木部長

先月の大雪では、大動脈の北陸自動車道・国道8号において、3年前と同様な非常に大規模な立ち往生・渋滞が発生し、本県の社会経済・県民の生活に多大な影響が生じたことを、大変申し訳なく、県としても重く受け止めている。このような事象が3年前と今回、同じく起きたことについて、直ちに、国土交通省、中日本高速道路株式会社、福井県、自衛隊などの関係機関が加わり、検証を行い結果が取りまとめられた。まだシーズン中であり、同じような状況が起きるかもしれないので、今月中旬までに具体的なところを詰めていく。

今回の大雪を踏まえ、雪に強い道づくりに対して、ハード整備はもちろんだが、各関係機関による除雪体制の連携強化が極めて大事だと痛感した。今後、より正確で迅速な、危機感のある情報を共有し、皆様に迷惑をかけないように対処していきたいと思っている。

本懇話会は、本日で4回目となった。これまで、委員の皆様からは、中部縦貫自動車道や国道8号など本県の骨格となる道路をしっかりと整備すべき、産業・観光・防災面において横の連携や横の軸をしっかりと整備すべき、今回のような大雪・大雨など災害に強い道づくり、新しい道の整備だけでなく今の道路をしっかりと維持すべき、歩行者や自転車など、誰もが安全に快適に通行できる空間を確保すべき、愛着を持ってもらえるよう地域住民が道づくりに積極的に加わり「オールふくい」で取り組むことが極めて重要、将来的にも道づくりにおいてデジタル技術を活用すべきなど様々な観点から貴重なご意見をいただいた。

本日は、最後の懇話会として、これまで議論いただいた内容を踏まえ、事務局より「福井県道路の将来ビジョン(案)」を示させていただく。委員の皆様には、忌憚のないご意見をいただき、将来ビジョンを取りまとめていきたい。

### 3 議 事

事務局

(1) 道路の将来ビジョン（案）について

#### 【資料1】

第3回懇話会で説明させていただいた骨子案を基に、委員の皆様から

の意見を踏まえ、ビジョン案をまとめた。第1章から第4章と参考資料という構成で、ビジョン案をとりまとめている。

## 【第1章はじめに】

### 1 背景と策定の趣旨

平成16年1月の「道路の将来ビジョン」策定以降、道路をとりまく状況が大きく変化したことや、昨年7月の「福井県長期ビジョン」の策定を踏まえ、「福井県長期ビジョン」と同じく2040年を目標年次とし、中長期的な道路整備の基本方針や道づくりの進め方を示す「福井県道路の将来ビジョン」を策定する。

### 2 福井県の将来像

「福井県長期ビジョン」においては、〔2040年に福井県が目指す姿〕の一つとして『飛躍するふくい』が掲げられており、新時代の産業基盤を確固たるものにするとともに、暮らしの質を高め、活力に満ちた地域をつくる。

さらに、〔2040年に向けた長期プロジェクト〕の一つとして、『県境フロンティア』が掲げられ、東西南北に開く高速交通・物流ネットワークの整備を加速し、新時代の交流・くらし・産業の基盤づくりを進め、新たな価値を生み出す産業づくりを推進する。

## 【第2章 現状と課題】

1～3は、第1回懇話会で説明した資料を基にまとめており、一つ一つの説明は割愛する。10ページに、新型コロナウイルス感染症への対応について、今回追加している。

新型コロナウイルスの感染拡大は、日本のみならず世界的な大きな影響を与えている。この感染拡大は、過度のグローバル化や都市への人口集中がもたらすリスクを顕在化させ、リスクに強い「分散型国家」への転換が求められている。

### 4 福井県の道路整備の課題

福井をとりまく状況、現状を踏まえ、道路整備の課題として5つにまとめている。

#### (1) 福井県を開く広域道路ネットワークの整備

中部縦貫自動車道のミッシングリンクの解消と舞鶴若狭自動車道の暫定2車線の解消（4車線化）が必要。

#### (2) 身近な生活道路における交通安全の確保

歩道の設置や段差の解消、歩行空間を明示するためのカラー舗装や防護柵の設置など、子どもや高齢者も含めた歩行者の安全を確保することが必要。

- (3) 気候変動に対応した防災対策・環境と共生するみちづくりの推進  
大規模な災害に備え、支援物資等の輸送ルートの確保のため、ダブルネットワーク化、緊急輸送道路等の防災対策、温室効果ガスの排出抑制に向け、公共交通機関を利用した移動への転換や近場の徒歩・自転車による移動の推進、電気自動車等の次世代自動車の普及など低炭素化を推進するための基盤整備が必要。
- (4) 道路施設の老朽化対策  
限られた予算の中で、既存施設を最大限に活かし、定期点検を実施し予防保全の補修による道路施設の長寿命化を図る。
- (5) 多様な主体による道づくり  
県民や民間事業者等、地域と一体となった道づくりを進めること、地域住民と一緒にになって維持管理や利活用を推進し、愛着のある道に育てていく取組を進める。

### 【第3章 道づくりの基本方針】

第3回懇話会で骨子案として説明した5つの基本方針と12の基本目標を記載している。

また、SDGsについて、理念に沿いながら未来につながる道づくりを進めることを記載している。

#### ○基本方針1 広域交流の拡大 ～広くつながる道づくり～

##### (1) 国土軸を形成し、県土の骨格となる広域ネットワークの構築

中部縦貫道の県内区間の早期開通、舞若道の全線4車線化など高規格幹線道路の整備を推進するとともに、高規格幹線道路と一体となって広域ネットワークを形成する道路を整備し、敦賀港・福井港等の物流拠点へのアクセスを向上させる。

##### (2) 東西南北に開き、交流を拡大するネットワークの強化

高規格幹線道路を補完し、県土を東西南北に開き県境をまたぐ道路（直轄国道、幹線道路）の整備を促進し、幅広い交流・連携の活性化を図る。

#### ○基本方針2 産業・観光の活性化 ～ふくいをみがく道づくり～

##### (1) 産業経済活動の支援

テクノポート福井等の産業拠点と北陸自動車道をつなぐ福井港丸岡インター連絡道路をはじめ、産業経済活動の支援や企業立地の促進、立地企業の規模拡大につながる道路の整備を進める。また、右折レーンの設置や4車線化によるボトルネックの解消など交通の円滑化を図り、市街地の幹線道路の渋滞を緩和する道路の整備を進める。

##### (2) 周遊・滞在型観光の促進

観光地等を結ぶ道路や広域周遊観光ルートを形成する道路など、観光の活性化を促進する道路を整備するとともに、わかりやすい道

路標識や観光案内標識を設置し、また、観光拠点となる道の駅などの整備やサイクリングコースのネットワーク化を進める。

### ○基本方針3 幸福度日本一の生活基盤

～ふくいの暮らしを支える道づくり～

#### (1) 快適な生活をサポート

通勤・通学、買い物などに利用され、地域間の交流・連携を強化する幹線道路の整備や、除雪体制の充実とともに、家屋密集区間や急な坂道等に消雪施設を整備する。

#### (2) 誰もが安全・安心

歩道の整備や段差の解消、無電柱化等による歩行スペースの拡充など、身近な生活道路において誰もが使いやすいデザインの道路空間の整備を推進する。

#### (3) 公共交通機関との連携強化

鉄道駅や道の駅を拠点とした公共交通ネットワークを強化するとともに、二次交通との連携を強化し、新幹線駅や地域の核となる駅から観光地や地域拠点等へのアクセス向上を図る。

### ○基本方針4 県土強靱化と持続性 ～強くてしなやかな道づくり～

激甚化・頻発化する自然災害に備え、平時・災害時を問わず人・モノ・情報の流れを確保する道路ネットワークの形成や機能向上を推進。また、原子力発電所が立地する福井県として、日常的な利用に資するだけでなく、有事の際には広域避難ルートにもなる道路の整備、防災対策など機能強化を進める。

雪に強い雪に強い道づくりとしては、ハード面の整備を進めるとともに、除雪体制の強化や関係機関との情報共有などソフト面の対策も進める。

道路施設の老朽化対策については、事後保全から予防保全に転換し、持続可能な道づくりを推進する。

急速に進展しているICTの活用により、道路管理の高度化・効率化を図る。

#### (1) 大雨・大雪等の災害に備えた機能強化

近年頻発する大規模災害に備え、緊急輸送道路等の防災・減災対策等を進めるとともに、日常的には人の交流や物流を担い、原子力災害時においては広域避難ルートにもなる道路の整備、防災対策の機能強化、また、大雪に備え除雪体制を強化するとともに、関係機関と情報の共有化を図り、一元化して利用者へ発信し、安全な通行を確保する。

#### (2) 道路施設の予防保全・長寿命化

橋梁やトンネル等の計画的な定期点検により、損傷度合いに応じて早期補修を行うとともに、事後保全から予防保全に転換し、道路施設の長寿命化を推進する。

### (3) ICTを活用した道路管理の高度化・効率化

AI監視等の新技術を導入した道路施設管理の高度化・効率化やGPS搭載の除雪車管理システムによる効率的な除雪の推進や、データ等を活用した渋滞対策を行うなど、ICTを活用し長期的かつ効率的な道路施設の機能確保を推進する。

## ○基本方針5 魅力ある道路空間の創出 ～居心地のよい道づくり～

### (1) 地域のニーズに応じた柔軟な道路空間の創出

地域住民や民間事業者等がイベントやオープンカフェ等の多目的に利用できるよう、歩行者・自転車空間を拡大するなど、道路空間の利活用を推進する。

### (2) 豊かな景観づくりと環境との共生

福井らしい歴史的なまちなみや優れた自然景観などに合わせたデザイン性のある道路空間を整備するとともに、地域住民が参加する花植えや清掃などを通して快適な通行空間（緑道）を創出する。

## 【第4章 道づくりの基本的な進め方】

第3回懇話会で骨子案として説明した3つの基本的な進め方を記載している。

## ○1 効率的、経済的な事業展開とストック効果の最大化

### (1) 選択と集中による事業展開

地域の実情を考慮しながら、重要度や必要性を踏まえ、適切な事業評価を行い、効果的・効率的な事業の推進を図る。

### (2) 建設～維持管理～更新を踏まえたライフサイクルコストの抑制

つくる時だけでなく、維持管理や更新を行う時期も含め、長期的な視点でコスト削減を図り、道路としての機能が最大限発揮できるよう道路施設の運用を図る。

### (3) 既存の道路（ストック）の維持管理の充実と長寿命化

老朽化していく道路施設に対して、定期点検の実施や予防保全型の補修を推進するなど、施設の長寿命化を図るとともに、地域住民や民間事業者との合意形成を図りながら、持続可能な道路の維持管理を行う。

## ○2 県民の参画と協働

### (1) コミュニケーション（情報共有と合意形成）

リーフレットやウェブ等を活用した積極的な情報発信を行うとともに、ワークショップ等による地域との合意形成を図ること、また、子どもたちへの「道と共に生きる」教育なども取り入れながら、豊かな暮らしを支える道づくりを進める。

### (2) 愛着のある身近な道づくり

地域住民や民間事業者が主体となった花植え活動や環境美化運動などの道守活動や、みどりのスコープひとかき運動などを幅広く

展開するとともに、地域が主体となった道路空間を活用したイベントの開催や憩いの場としての利用など、愛着をもって人が集まる賑わいのある道づくりを進める。

### ○3 情報化技術の活用

#### (1) 通信技術を利用した情報の収集・発信、一元化による共有

I C T等を活用しながら、関係機関と積極的に情報交換し、利用者からの道路に関する異状等の情報を収集、一元化して有益な情報として発信、共有することで、通行の安全性や利便性の向上を図る。

#### (2) デジタル技術の有効活用

A Iやビッグデータなどの利用により、渋滞や事故の発生により危険のある箇所的確な把握や画像解析による道路異状箇所の早期発見など、道づくりや維持管理の高度化・効率化を図るとともに、自動運転車など多様なモビリティの実用化がスムーズにできるよう基盤づくりを進める。

以降、参考資料として、福井の道づくり懇話会の開催経緯や福井県の道路についてのアンケートについて掲載している。

座 長 去年8月、第1回道づくり懇話会が開催されてから3回、いろいろと委員の先生からの貴重なご意見の成果物が「福井県 道路の将来ビジョン(案)」としてまとめあげられた。中身も3回の議論を通してかなり充実した内容となっている。委員の先生には、この(案)をご覧いただき、振り返り、感想、お気づきの点など忌憚のない発言をお願いします。

委 員 懇話会の意見を、たくさん反映していただき感謝申し上げます。

#### ① 2 県民の参画と協働(p 37)大きな柱について

「参画」の意味が大変重要だと思う。

「これからの道づくりは、『つくる』時だけではなく～」の文章から、『つくる』時だけではない環境美化、イベントや空間利用はもちろん重要であるが、『つくる』時も非常に重要であり、そのことが文中にあまり表現されていない気がした。丸岡での道づくり(p 33)が白紙の段階から住民参加を行ってきた経緯・実績があるにも関わらず、そうした計画段階からの住民参加、県民参画があまり打ち出されていないように思うので、是非、関連箇所で記述を加えていただきたいと思います。

座 長 住民の参画は重要な視点であるので、各箇所で記述する場所があれば、入れていく。事務局と精査していく。

委 員 補足として、計画段階から参加することで、愛着が育ち、自分達でも担っていこうという意識が育っていくプロセスがとても重要であるの

で、そのことに触れていただき、それがあってこそ出来上がってからの維持管理だと思う。

座 長 つくりあげる時点から「協働」の文言を入れて明確に打ち出したいと思う。

委 員 前回の懇話会の意見を受けて、ブラッシュアップされ、わかりやすくまとめられている印象がある。

その上で、2点ほど確認とお願いをする。

① 基本方針の方で、前回と比べると非常にわかりやすい写真の表現に変わっているが、それ以外で、例えば図中のタイトルの位置や矢印で何(タイトル)を示しているのか、図表の表し方も少し統一感が無いように感じる。見やすく、県民に分かりやすくを考えるとレイアウトを丁寧に確認して精査をしていただきたい。

② 県民・市民に、どういった形で今後情報発信がされていくのだろうといった点も含めて、今日の最後の懇話会で是非議論をいただきたい。

進め方の中(p 35)の「2 県民と協働」(1)コミュニケーションを図っていくことに合わせて、「3 情報化技術の活用」の категорияもあるので、新しい形のこれからの時代に相応しい情報発信のあり方の提案が、この懇話会からできればと思う。

座 長 まず①の基本方針・目標は、見せ方(ビジュアル)を分かりやすく表記していきたいと思う。

②の情報発信について、後ほど【資料2】のところで事務局から話があると思うが、それ以外の情報発信の仕方も考えなければいけないと思うので、その件について、いい案があれば教えていただきたい。

委 員 良くなったと感じた。

① 「5 魅力ある道路空間の創出」(p 32～34)について

前回、道路空間のデザインや使い方のイメージを膨らませるような写真や他県の事例を入れたらどうかとの提案をしたが、添付しているのは全て福井県の事例の写真である。しかし全国的に見ると、最近は特に、使い方としても空間デザインとしても魅力的な事例がたくさんあるので、そのような事例を紹介したら、よりイメージが膨らむと思う。県の事例に絞るとしても、例えば、敦賀のイベントの利用写真(p 32)は、私もイベントに参加し、写真を持っているので提供できる。

② 「(2) 豊かな景観づくりと環境との共生」(p 34)について

「地域住民が参加する花植えや清掃などにより、心地よい通行空間(緑道)を創出し～」について、「緑道」は花植えに限らず街路樹なども含まれると思うし、「心地よい通行空間」は「緑道」とは限らないと思うの

で、文章表現として、「心地よい通行空間（緑道）」の括弧表現に違和感を覚え、「心地よい通行空間・緑道」や「心地よい通行空間や緑道」などの表現に見直した方が良いと思う。

座 長 ①写真については、事務局の方でよりよい写真を探し、無い場合は先生の方をお願いしたいと思う。

②「緑道」の件は、もう少し幅を持たせた表現を考えて織り込みたいと思う。

委 員 全体を通して非常によくまとめられて整理されていると思う。

① 4（1）福井県を開く広域道路ネットワークの整備（p 16）

表現として、中部縦貫道のミッシングリンクの解消と舞若道の暫定2車線の解消の表現が弱く感じ、ストレートに、中部縦貫道の「全線開通」、舞若道の「全線4車線化」と明記した方が、目指すべき事が明確化すると思う。文章的には同じ内容が書かれているので、その箇所は直した方が良い。

② 「3 幸福度日本一の生活基盤」（p 24～25）など、個別としては入っているが「人中心」の道路空間を言葉として入れた方が良いと感じる。信号のない横断歩道の研究などでは、車中心が過ぎるので、もう少し人を中心に考えることを「柱」として見える形にした方が良い。ドライバー中心の部分もあるが、歩行者も、「誰もが安全・安心」（p 25）の部分に実質的な意味が入っているが、そこだけに留まるのも狭い感じがするので、工夫していただきたい。

③ 「高齢化」と「国際化」（p 22）について

前回の道路ビジョン（平成16年1月）では、「まもる」の中に「過疎・高齢化への対応」として見える形になっていたが、今回、その言葉がどこにも出ていない感じがする。難しいとは思いますが、社会全体のベースとなっているので、道路として触れられる箇所があると良い。

「国際化」については、周遊・滞在型観光（p 22）に入れるのが分かりやすいかもしれないが、グローバル化の中で「道」を考えていかないといけない。

座 長 ①「解消」の表現はストレートな形で表現したいと思う。

委 員 ストレートな表現の方が、言い切って方向を出している表現に取れる。「悪いところは直します」などのマイナス面から、「こうします」と言う方が、強い意思を感じる。

座 長 ②「人中心」（p 25）について、書きぶりを考えてみる。

事務局 事務局で文言などを検討し、添付写真についても、今は児童中心となっているので、シニアカーの移動や通行の確保などを考えていく。

座 長 ③「高齢化」と「グローバル化」について  
「安全・安心」(p 25)の箇所に「高齢化社会の到来の中」、「観光拠点となる道の駅〜」(p 22)箇所に「グローバル化」、などの形で一言入れ込めたらと思う。

委 員 「学生や高齢者」(p 25)の箇所で「高齢者」といった言葉は出ているが、軽い感じで言葉が出ているため、以前よりも高齢化は進んで、より高齢化がベースになる社会の中で、どうしていくか、を示すような感じが出ると良いと思う。

委 員 先程の「人中心」(p 25)に関連した意見として、歩道設置率の表(p 12)では、福井県が歩道整備率44位と全国で低いことを痛感する。  
「歩道整備」(p 25)の四文字で表現されている箇所をもう少し書けないかと思う。現状(p 12)の書き方として、「北陸3県の中でも下位」との表現となっているが、「全国で44位」と書いた方が良い。

座 長 事務局と相談して対応する。

委 員 豪雪災害における防災的な文言が随所に入っている。その中で、ハードではなくソフトの対策がいろいろなところ書かれているが、例えば、予防的な措置はどのような形で読み取れば良いのかと思う。除雪体制の強化とは違うし、関係機関との情報共有(p 27)の延長に、そのような交通規制などの予防措置が入ってくると理解すれば良いのか。

事務局 今回の大雪を受けて、除雪のための通行止め措置が取られたが、対応については、また別途(除雪)計画等に反映できていると思うので、ビジョンについては細かい部分までは書かずに、関係機関との連携を強化しながら行っていく旨に留めている。

座 長 このビジョンは上位計画であり、できれば全体を包み込めるようなビジョンに仕立てたいとの思いもあり、細かい部分まで落とし込むと、それに縛られるところがあるので、逆に避けている意味もあると思う。もう少し広く時代の変遷と共に考え方も変わっていく部分もあると思う。

委 員 雪の話に関連して、県民アンケートの「問9 活力ある地域づくりのための道路施策」に対する一番の回答は、「雪に強い道路」が、平成14年と令和2年では割合が下がっているが、まだ半数以上の人が「雪に強

い道路」を望んでいる。今年の雪は3年前の雪と比べると、福井市内の降雪量を見ると40cmほど少なかったが、それでも大きな混乱が生じている。昭和56年の豪雪は、196cmの積雪量であったが、現在の車両台数は当時（昭和56年）の2倍以上になっている。雪の傾向は減少傾向と分析しているが、少ない雪でもこれだけ車両の台数が多くなると大規模な渋滞を招いてしまうことを考えると、道路の将来ビジョンを作るにあたり、細かいソフト・ハードの部分は下位計画に任せればいいが、「雪に強い道をつくる」考え方を、このビジョンのどこかに打ち出しておかないと、この時期に作る道路ビジョンとしてはどうだろうと思う。

事務局           ご指摘の通り、県民アンケートにおいて「雪でも安全な道路」要望が上位にきている。新ビジョンでは「4 県土強靱化と持続性」（p27）において、雪に強い道づくりの施策をまとめているが、もう少し強く行っていく表現に改める。細かい除雪の方法などについては詳しく書いていないが、道路整備における「雪に強い道づくり」をわかりやすく直していきたいと思う。

委員             3年前の豪雪時、福井市にいたが、福井市内だけの除雪を見ると、県管理の道路は3年前と比べると格段に除雪が良くなったと思う。市道関係は相変わらずだったが、県管理道路が良くなった点については、除雪体制が強化されてきており評価したい。ただ、「雪に強い」視点を常に道づくりに活かしていくことを忘れずに、どこかに書いた方が良いと思う。

座長             インパクトのある文言等を考え、入れていく。

委員             雪について、道路利用者の立場から申し上げると、1月の豪雪時に、我が社も5台ほど巻き込まれ、最長で3日間帰って来られず、ドライバーの精神的・肉体的苦痛は計り知れないが、家族も随分心配した。「雪に強い道路」は非常に難しく多岐に渡り、ただ4車線化したから雪に強いではなく、やはり除雪体制にあると思う。除雪体制も一般的にオペレーターが少なくなり、高齢化しているなどの課題もあるが、やはり、情報が重要である。いかに早く情報（スタックや通行止め）をドライバーに知らせるかが大事だと思う。「雪に強い道路」に関連して書いてもいいが、結局、そのような情報の共有が遅れるため、ドライバーが突っ込み、その場所で何百台もの車が立ち往生してしまう悪循環が起きている。除雪体制も、どのエリアが未完了となっているかや、気象条件によって、どのエリアの通行止めを何時間行うなどの情報をどこかで集約し、効率的に除雪を行ったり、車がスタックなどした場合の情報をドライバーに素早く流すことが重要だと思う。「雪に強い道路」の表現は難

しいが、例えば立ち往生にはいろいろな要因が含まれており、それ一つ一つを個別に解決していかないと難しい問題だと思う。

事務局

物事が起きる前のドライバーへの幅広い事前の広域の情報提供や、スタックが起きてからの滞留車への情報提供については、今回1月の大雪を受けて国、ネクスコがまとめた対応にも重要課題として提示されている。県としては、その課題を国、ネクスコと詰めている状況なので、ビジョンには価値観としてしっかり書かせていただき、具体的な対応については、まさに、今議論しているところであるので、是非一緒に考えさせていただきたい。

座 長

最後に私から一言申し上げる。

① (7) 新型コロナウイルス感染症への対応(p 10)について

2040年までのビジョンの期間を考えると、感染症は新型コロナウイルスだけに終わらず、他の感染症も出てくる可能性が高いので、そこに含みを持たせた書き方にした方が良いと思う。2040年になって、コロナウイルスは風邪かと言われる時代になっているかもしれない。そこは多様な感染症に対応可能といった形にさせていただけたらと思う。

② 個人的には、3回の議論を踏まえて委員の方からの貴重な意見をいただく中で、ここまで中身の濃い内容になってきた。ポイントは、課題と課題に対する対応の基本方針(p 16～17)の中で、大事なワード(言葉)が抜け落ちていないかを注意して見たが、大きな抜けはなかったと思う。

③ 道づくりの3つの進め方(p 35)について

「3 情報化技術の活用」でデジタル化を意識した言葉を入れ、「1 効率的、経済的な事業展開とストック効果」、「2 県民の参画と協働」の具体的な対策の解決法を導き出しているので良いと思う。

本日も多くの意見をいただいたので、いただいた意見を精査して、最終の確認については、私に一任させていただきたい。

事務局

(2) その他について

【資料2】

「福井県 道路の将来ビジョン」の策定に向けたスケジュールについて説明。

これまで「福井の道づくり懇話会」を、本日を含めて4回開催し、ビジョン(案)をとりまとめた。今回のビジョン(案)にいただいた意見を修正した上で、今後の予定として、市町の意見を再度確認したいと思う。

また、パブリックコメントを2月16日(火)～3月2日(火)にかけて予定している。最終的な確認を行った後、策定公表を3月下旬に予

定している。

策定した「ビジョン」については、周知するため、県の道路建設課のHPに掲載するほか、各市町や図書館、関係機関にも配布し、なるべく多くの方に見ていただきたいと思っている。

また、次世代を担う子どもや学生向けに、より分かりやすい概要版を作成し、道路について身近に感じてもらえるような取組も行っていきたいと考えている。

どのような方法がいいかなど、委員の皆様から意見をいただければと思う。

座長 情報発信の方法について、発言をお願いします。

委員 今後の進め方の2つめの大きな柱にも挙がっている、いかにビジョンを共有するところを、かなり力を入れてやっていただきたい。

2点確認をお願いしたい。

①前回どのような形で広報活動を行ったのか。

②前回からかなり情報ネットワークのインフラ整備が大きく変化していると思うので、どのようなことを考えているか。

事務局 ①前は、古いこともあり情報を持ち合わせていない。

②今後は、子供達が手に取ってわかりやすいパンフレットを作成し、県の現場でトーク（出前講座）活動を通して、地域からの要望を受けながら職員が説明に行く場もあり、それ以外の機会でもパンフレットを活用しながら、広く広報に努めていきたいと思っている。

委員 一つのアイデアとして、「大野市の総合計画」の概要版作成について、事例を提案させていただく。これまでは、印刷業者のデザインで作るこむ形を進めていたと思うが、そこに、より新しいデザインの力を加えたらどうかと伝えたら、プロポーサル形式で概要版を作成するための業者を選定し、我々も審査に関わりながら、違った目線で作りこむステップを踏んだ。

今回の事案に関しても、そのような取組や、作る側においてプロのデザイナーや、より目線の下がった人達にお願いすることも有りだと思う。(概要版を)作ることに對しても、いろいろな人が関わることをすれば、見え方が変わってくると思うので、検討していただきたい。

事務局 一般の方に分かりやすい言葉が大事であるが、県が積極的に関わると難しい言葉ばかりになってしまうので、工夫をして作っていききたいと思っている。

委員

パブリックコメントは、HPに掲載して、見ていく形で実施するのか。新聞にも載せると思うが、どこからその情報を得るか、いろいろな方法があると思う。パンフレットを作った後の話になるかもしれないが、ショッピングセンターや子どもたちが遊んでいる近くに、親が待っている場所に置いておくなどしてはどうか。高校生などは、アオッサで勉強している合間に見てもらおうとか、図書館などいろいろな場所に、細かい部分は見ないと思うので、1枚ものでキャッチーなところを掴み、あとはQRコードで見てもらおうなど、そのようなことにチャレンジしていかないと、中々若い人たちに言っても難しいと思う。また、バス・鉄道利用者も福井の人は当然車を持って、乗っているの、道に対してはいろいろ思うことがあると思うので、バスの中や鉄道駅などに置いてもいいのではないか。全部には配らなくても、その辺りの人たちに「ここを見てね!」といったチャンネルを作ることを、難しい話ではないと思うので是非考えていただきたい。

事務局

概要版についても、冊子形式になると若い人は手に取りにくいなど、今ご提案いただいたQRコードで簡単にアクセスでき、自分のスマホで見て、持ち歩きもでき、いい案だと思うので積極的に取り組んでいく。

パブリックコメントについては、福井県で何件かこの日程でパブリックコメントを行う案件があるので、一齐に新聞各社から周知を行い、皆様から意見をいただくことを進めている。

委員

子どもたちへの周知に関して、今回、ビジョンの中に子ども達に対する道づくり教育を大きく位置付けて、大変画期的で素晴らしいと思う。それも含めた上で、子供のための概要版をもう少し一歩先に進めた“副読本”のような形にして、知識偏重ではなく、副読本を用いた教育を通して行動に繋がるような、使えるような概要版を作っていただきたい。

委員

紙形式も良いが、県内に道の駅があるので、親子でドライブしながら、いろいろな場所を回ってもらい、そこでオリエンテーリング方式のようにポイントを見つけ、ウンチク(道路関係)を学んだり、QRコードでクイズを制覇してポイントラリーを行い、何か所か行けたらご褒美に新聞に名前が載るなど、親子がゲーム感覚で行い、実際にその場所に行き、いろいろと考える時間を作るような取組にしていくと、紙をもらうだけより、もっと面白い展開ができるのではないかと思います。

また、道路ビジョンは広くいろいろ網羅されているが、ビジョンの中でもメインな言葉やタイトルが一番人に伝わりやすく、関心を引くところなので、“スローガン”のような訴えたい点、県民に関心を持ってもらうための3つほどポイントが書かれていると分かりやすいと思う。

事務局 スローガンの一つの案として  
“幸せを 未来につなぐ ふくいの道”を一つの案として検討している。

委員 福井は、県外の人から見ると、幸せの押し売りのようなイメージがあるので、漠然としたイメージよりもっと、“みんなで共有して、いい福井を作っていこう”というスタンスなど、参画するイメージのスローガンの方がいいと思う。

概要版作成時などに、プロのライターさんに入ってもらって、検討していけばいいと思う。

座長 スローガンについては、また検討する。

委員 このビジョンは2040年为目标なので、あと20年、早く進めて欲しいと思う。

行政主導の会議なので、致し方無いが、やはり“供給する側”と“利用する側”の話になるのは残念。私も行政側の立場であるが、PRや公表に関して、何もかも県主導で行うことはあまり良いことではないと思う。折角の委員会開催なので、それぞれ持ち帰りPRしてはどうかと思う。私も市町の立場として、道を作ってもらう時もあれば、作る時もあり、除雪の責任もある。我が町は田舎なので、除雪の協力に対して住民の意識がもの凄く高い。雪深いので、現在50～60cmは積もっており、今日も10cm降った。そうになると、除雪をしてもらう、あるいは、してもらいやすくしなければ自分たちも道路を利用できないことは昔からである。

ここにきて、道づくりの整備はかなり進んできたし、老朽化の対応もかなり対応してくれている。あとは、利用者(使う者)が、玄関から一歩外に出たら道路なので、どのように使うのかを、それぞれもう少し考えてもらって、行政に要求してもらうことはしなければいけないが、住民もゴミを拾うことが美しいのではなく、ゴミを捨てない文化を我々が作っていかないといけないと思う。緑のスコップ運動など、ほんのひとかき、皆のためによりよい道路利用になっていってほしい。もう少し、この部分が県内の中で進んでいかなければならないと思う。

座長 当事者意識というか、行政もサービスを受取る方も同じで、一般の県民の方も当事者意識を持って一緒に考える機会をできるだけ多く作っていくことが大事だと思う。そのために、情報の発信の仕方なども含めてあると思う。

“あなた達作る人” “私達使う人”ではない考え方を、県民の方にも

理解していただく必要があると思う。

委員 工夫に関しては、県が全部を工夫する必要はなく、メディアの方の記事の書き方一つでイメージがガラッと変わるので、当事者意識の議論があったことを載せてもらいたい。また、そんな取組をクローズアップして書いてもらうなど、メディアの方の応援をお願いしたい。皆で取り組むことが福井県であり、幸せやコミュニティで暮らして、皆で助け合っていくことが、全国に対して勝っていけることになると思う。

座長 本日いただいた貴重な意見をビジョンに活かしていきたいと思う。

#### 4 閉会

司会 本日は、貴重な意見をいただき、ありがとうございました。今回で懇話会は最後となる。最後に福井県土木部長よりご挨拶申し上げます。

あいさつ 閉会にあたり、一言御礼を申し上げます。

土木部長 委員の皆様には、今年の夏の第1回から本日の第4回の懇話会まで様々な角度から貴重な意見を賜り感謝申し上げます。

本日もビジョン（案）の本編に関する表現の仕方、分かり易さが大事であること、将来ビジョン作成が目的ではなく、このようなことを皆様に情報発信して、目標年次2040年に向けて大事なことは、子ども、学生など、これから世の中を担う方々が、これから自分達の道路をどうするのかと真剣に考えていただけるよう、いかに我々が発信していく事が極めて大事だと思っており、どのような形で打ち出すか、引き続き皆様の意見をいただきながら工夫をしていきたいと思っている。

このビジョンは2040年の姿の方向性であり、この方向性に基づいて、もしくは時代の変遷と共に加えて、いかに実行するか。実行してその効果を県民の方々がいかに実感していただくかが、極めて重要であると認識しており、このようなことを心に入れながら反映していきたい。

委員の皆様方が、今後益々ご活躍されることをお祈り申し上げますとともに、引き続き本県に対し、いろいろな形でご意見、ご支援を賜りたいと思うので、引き続きよろしく願います。

司会 これをもって、本日の懇話会を閉会する。